

エミューの繁殖と雛の成長記録の経過報告

よこはま動物園 ○濱田 奈々

よこはま動物園では、現在 No. 1♀, No. 2♂, No. 4♀, No. 5♀, No. 8♂と、昨年度繁殖した No. 13♂の計 6 羽を飼育している。今回はこの No. 13♂が繁殖した経緯について報告する。飼育しているエミューは相性の関係で、No. 2, 4, 5 の 3 羽群と No. 1, 8 の 2 羽群に分けて飼育している。エミューの平均寿命が 20～30 年と言われている中で、開園当初から飼育している No. 1♀, No. 2♂の 2 羽が 2018 年度で 22 歳と高齢となり、No. 1♀は繁殖不可。No. 2♂はまだ繁殖可能だが、死亡した際に繁殖ペアがいなくなってしまう可能性がある。そこで、今までは繁殖制限のため産卵した卵は全卵回収していたが、今回新たに No. 2, 4, 5 の 3 羽群で 2 羽の孵化を目標に繁殖を試みた。2018 年 11 月 2 日から No. 2♂が人に対してアピールする発情期特有の行動が観察された。12 月 5 日から産卵が確認され、その後 1～5 日おきに産卵をし、2 羽で合計 19 卵の産卵を確認した。2019 年 1 月 21 日より抱卵が開始された。抱卵後、産卵した卵を 2 卵だけ残し他を偽卵に差し替えた。回収した卵はすべて有精卵であった。2019 年 3 月 21 日の朝に 1 羽の孵化を確認。No. 13 とした。孵化後、No. 2♂がヒナを温め、育雛する様子が観察された。生育過程で足が震えたり、採食時に座り込んでしまったりする様子も見られたため、エサ量等を変更したり、展示場に放飼するなど飼育スペースも広げて運動量を増やしたりした。その後は徐々に回復していった。地中の増加を他園の個体と比較したが、大きな違いは見られなかった。生後 2 か月半ごろにはヒナの縞模様は薄れていき、足の震えも見られなくなった。そのまま順調に生育し、現在に至っている。